

令和8年度 福島市写真美術館 企画展

スケッチ写真「モンゴル1943年」

『スーホの白い馬』絵本画家・赤羽末吉



[阿巴嘎(アバガ)大王府]

令和8年 7月18日(土)～8月16日(日)

午前9時～午後4時30分 (入館は午後4時まで)

会場／福島市写真美術館(花の写真館)

観覧料／一般 300円 高校生以下 100円

※未就学児無料

ギャラリートーク

絵本『スーホの白い馬』に生きる赤羽末吉のモンゴル写真

【日時】7月25日(土) 13時30分～15時

【会場】2階「多目的室」

【講師】赤羽茂乃氏

【内容】赤羽末吉が、なぜ絵本『スーホの白い馬』を描いたのか、赤羽末吉のモンゴルの写真とその記憶がどのように絵本にいかされているかなど

【参加料】観覧料のみ

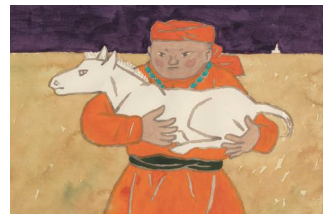
事前申込制・先着30名

【申込方法】HP申込フォーム
もしくはお電話で

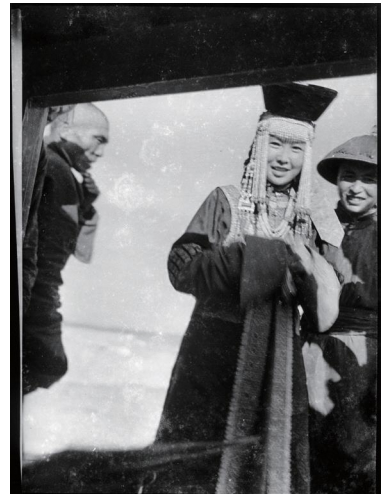
申込
フォームは
こちら



立ち話



大塚勇三再話、赤羽末吉画「スーホの白い馬」(福音館書店、1967年)
表紙とエングラフ(部分)/ちひろ美術館所蔵



従者をしたがつた王妃[貝子廟]

主催／福島市写真美術館(公益財団法人 福島市振興公社)・福島市
協力／一般財団法人 日本カメラ財団(JCII)・ちひろ美術館
後援／福島民報社・福島民友新聞社・福島テレビ・テレビユー福島・福島中央テレビ・福島放送
ラジオ福島・ふくしまFM・福島コミュニティ放送FMポコ

連絡先

福島市写真美術館(花の写真館)
〒960-8002 福島県福島市森合町11番36号
TEL 024(563)4990

国際アンデルセン賞画家賞を受賞し、『かさじぞう』『スーホの白い馬』などの絵本作家として知られる赤羽末吉。

旧満州(現中国東北部)に渡り、運送会社や満州電信電話株式会社に勤務、1943年に成吉思汗(チンギスハン)廟内の壁画作成グループの一員として内蒙古(現中国内モンゴル自治区)取材し、その風景を写真に収めました。

果てしない空、見渡す限りの大地、点在するパオ、遊牧の風景や、民族衣装をまとった人々、そして貝子廟(バイズミヤオ)に息づく祭り。これらの写真は名作『スーホの白い馬』を生み出す原点となり、絵本の挿絵と重なる情景も見受けられます。

また、貝子廟は1966年の文化大革命で破壊されてしまったため、当時の活気あるお祭りの様子などは、現在では極めて貴重な歴史的資料でもあります。

本展では、赤羽末吉が絵本画家の視点で捉えたモノクロ写真等約90点を展示いたします。



チャムの予行演習[貝子廟]



[貝子廟]

赤羽 末吉(あかば すえきち)

1910年、東京・神田美土代町生まれ。中学卒業後、日本画家に1年間入門し、プロレタリア美術研究所に3ヶ月通う。のち、旧満州国へ渡り、運送会社や満州電信電話株式会社での仕事に就く一方で絵を描き続け、満州国美術展特撰賞を受賞。1943年、興安で新設される成吉思汗(チンギスハン)廟内の壁画制作グループの一員として、内蒙古、大同、北京に取材旅行。

戦後、1947年に帰国後はアメリカ大使館情報交換局展示部展示課に勤務する傍ら、1961年に福音館書店の絵本『こどものとも』のために『かさじぞう』『スーホのしろいうま』を制作する。

1967年に改訂版『スーホの白い馬』を上梓。

1980年、日本人として初の国際アンデルセン賞を受賞。

1990年に逝去。



貝子廟取材班1943年
右が赤羽末吉



福島市写真美術館 (通称：花の写真館)



「花」：秋山庄太郎 書

〒960-8002
福島県福島市森合町11番36号
TEL 024 (563) 4990



HP



X

公共交通機関をご利用の方は

- **路線バス**【乗車場所】福島駅東口停留所(9番ポール)
コース①:「市内循環もりん2コース」乗車→「福高前」下車(約5分)
コース②:「市内循環もりん1コース」乗車→「福高前」下車(約17分)
※上記から東へ約1分

お車をご利用の方は

- 東北自動車飯坂インターから市街方面、国道13号を經由 約15分
- **花の写真館駐車場 13台** ※おもいやり駐車場含む
- **臨時駐車場**(保健福祉センター第2駐車場)

お車の駐車台数に限りがありますので、乗合せ公共交通機関のご利用にご協力ください。

- **MOMORINシェアサイクル**

こちらもご利用ください。

詳しくは二次元コードを読み取ってホームページをご覧ください。

- **福島駅東口より徒歩 約15分**



アクセスマップ

